

## 令和5年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文中学生の部 優秀賞(事務次官賞)

「 災害が教えてくれたこと 」

熊本県 山江村立山江中学校 3年 横井 幸徳<sup>よこい ゆきのり</sup>

3年前、「ピロリロリーン。」という音が家中に響いた。当時小学6年生だった僕は「うるさいな。」と思いながらベッドから降り、祖母たちの元へ向かった。廊下を歩いていると土混じりの異臭が家中に漂っていたのを今でも鮮明に覚えている。

その日は、「ザーザー」という大雨の音と「ゴーゴー」という聞いたことがない音がして、なかなか眠りに着くことができなかった。夜が明けて玄関に行くと、床が水浸しだった。今まで見たことのない景色が目の前に広がり、自然の恐ろしさを身をもって感じれた。僕は、祖母の家にお泊りしていたため家族と離れ離れだった。電話をしても繋がらず、メールも届かなかったので、今家族はどうなっているか心配だった。しばらくして、祖母の携帯に「今から迎えに行くね。」というメールが届いたときは、家族に会える嬉しさと、家族皆が活着ているんだという安心感がすごくあった。しかし、自然は残酷だった。今まで通れていた道が跡形もなく無くなっていた。道路は全て川の水に削られ、寸断され、橋に流木や土石流が流れ込んで、車が通れる状況ではなかった。それを見て、安心から一気に不安に変わり、僕はもう家族に会えないと思った。でも、会いたいと思う気持ちが自分の身体を動かし危険を犯しながらも泥水の中へ入り、母の元へ辿り着いた。母を見た時、会えた喜びと安心で涙があふれ出してしまった。僕が避難した後も、消防団の方や自衛隊の方たちが、懸命に動いてくださっていたのをテレビで見て、消防団の方たちも大変で危険な中、1人1人に笑顔で「もう、大丈夫ですからね。」「安心してくださいね。」と声をかけ優しく助けている姿にとても感銘を受けることができた。

今回このような経験をして学校で行う、防災教室や避難訓練が大切なんだと改めて感じた。僕が1番困ったのは、どこが安全でどこに避難すればいいのか分からなかったことだ。なぜ分からなかったかという、ハザードマップを持っていなかったからだ。ハザードマップとは被災想定区域や避難場所、避難経路などの防災関係施設の位置などを表示した地図のことだ。僕は祖母宅の地区の周りのことや、危険な所、安全な所を知らなかったので、自分でどうすることもできなかった。この時、初めてハザードマップの大切さを知った。そして、学校の避難訓練で自分が住んでいる地区の危険な所や、被災場所の確認をした。皆で話し合いながら協力して意見を出せた。自分ですより、皆でしたほうが、自分が知らなかった危険な場所を知ることができた。この確認は、自分や皆にとって、とてもためになる時間だったと思う。僕は、この事を家の人に伝えた。皆すごく真剣に聞いてくれて、安全な所、危険な所を共有することができた。家の周りの事は知れたけど、祖母の家の周りの事も気になったので、豪雨の日のことを思い出しながら危険な所を母と一緒に確認した。祖母に教えたら、とても嬉しそうだった。その姿を見て、やってよかったと思えた。今年も全校生徒で集まり、グループ別で話し合いをした。今回は、避難場所にどんなものがあったらいいかを話し合った。洗面台や脱衣所、トイレなどのプライベートルームはもちろんだが、医療関係や赤ちゃんへの授乳やオムツ交換などのベビールームなどの思いつかなかった案がたくさんでてきた。この話し合いもとてもためになったと思う。僕の通っている山江中学校も大事な避難場所の1つだ。僕は何ができるか考えたとき、山江中の事を案内できると考えた。山江には、県や市、県外から移住してきてる人もたくさんいる。その人たちだけではなく、高齢の方や保護者の方など、山江中の構造を知らない人はたくさんいると思う。きっと避難しにきた人は、パニックで混雑すると思う。だから、冷静に皆を誘導し安心させたいと思った。

このような経験を通して、自然の恐ろしさはもちろんだが、自助や公助の大切さも学ぶことができた。今回の出来事は本当に誰も予想してなかったことだ。何回も言われているが、自然災害はいつくるか本当に分からない。このことを身をもって感じれたことは、良い経験になった。今までの防災教室で学んだことはとても自分の役に立つことだ。このようなことは、もう2度と起きてほしくない。でも万が一のことがあった時のために、常に頭にいれておこうと思う。まだまだ復旧工事が行われているが、明るく、自然いっぱい山江村に戻ることを祈っている。